

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 3月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500614		
法人名	社会福祉法人しらゆり会		
事業所名	グループホーム長寿苑		
所在地	東広島市西条町馬木1660-2 (電話) 082-425-2000		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3472500614&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①個々の生活パターンを把握し、落ち着いて生活できるような環境作り。</p> <p>②利用者家族等誰でも気安く訪問できる開かれたホーム作り。</p> <p>③体調の急変等で終末期を迎えられても最期まで看取りのケアを実施できる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、東広島市南部の高齢者総合福祉センター「長寿苑」の関連7事業所と共に広大な敷地内にあり、近隣は閑静な農家を中心とした小集落であるが、交通の便はJR山陽線、新幹線の各駅、バス等公共交通機関の便もよく、国道375線に隣接しアクセスは便利である。事業所の運営は社会福祉法人「しらゆり会」が、地域の介護・福祉の先駆者として地域密着型介護事業所として質の高いサービスを提供し、行政関係者・利用者の家族・地域の住人からも期待と信頼を得られている。職員各位は豊富な経験と常に笑顔で業務に邁進され、現状に満足することなく管理者と共に理念の追求に日々努力され、利用者も明るく、楽しそうに生活されており、安定的、継続的な介護サービスの提供に、ご家族も安心出来る事業所の確立に努力されている。</p>

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念に沿い、事業所独自の理念を作り、スタッフと共有し、実践につなげている。	法人全体の理念に沿って、「ゆっくり・優しく・確実に」をモットーとしてホーム独自の理念を作成し、その達成に向け全職員が理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お花見会・夏祭り・小中学校や保育園の慰問で子供達や地域の方々と交流を図り、地域の中に溶け込んでいる。	近隣の幼稚園・小学校・お寺等と緊密な関係を保ち、事業所の夏祭り・お花見等には、施設内の敷地を地域住民にも開放し、利用者の家族・地域住民を大々的に招待したり、又地域のボランティアの方が折り紙や習字、生け花等定期的に訪問され、利用者の誕生会にも慰労・慶祝活動をされたり、常に地域の一員としての交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年2回発刊の広報誌や、在宅系事業所のスタッフによる在宅訪問時に会話等の中で活かされている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の推進会議を開催している。行政・地域・家族の代表に参加してもらいサービス向上の意見交換をしている。	運営推進会議は、定期的で開催され、行政の職員・民生委員・家族代表等幅広い立場の人々の参加の下、活発な意見交換がなされ、時には、家族会後により多くの家族の意見を求めるべく運営推進会議を開催し、双方向の意見交換のある有意義な会議となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	推進会議のメンバーに市の介護保険担当者が参加しており都度協力関係を維持している。	市町担当者とは、母体法人を通じて常時連携を図り、運営推進会議には必ず東広島市の介護保険課職員の参加があり、事業所も行事・イベント等には市町担当者を招待し連携は密にされている。	

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内外での研修会参加や、身体拘束禁止委員会を立ち上げ、定期的開催し話し合う場を設けている。又、玄関の施錠については、建物の構造上フローの出入り口が電気錠になっているため、常に施錠状態であるが、誰でも開けられる状態である。</p>	<p>身体拘束・虐待の防止については、事業所内研修や社外研修にも積極的に参加され、特に身体拘束禁止委員会を毎月1回開催し、職員全員が禁止事項を正しく理解し、身体拘束をしないケアが実践されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内外の研修会に職員を出来る限り参加し、虐待防止法を学ぶ機会を持てるよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内外の研修会に参加し、学ぶ機会を持てるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約等については、常に管理者と担当事務職員が対応し、説明と確認を実施している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会、面会時には、家族の要望を聴き出来る限り反映させている。又、意見箱を設置し、意見や苦情を受け付けている。</p>	<p>運営推進会議や家族会、面会時等あらゆる機会を通じ、意見や提案等の把握と集約に努め、利用者の要望・意見は日々のケアの中で把握し、職員相互に共有し、管理者とともに即時対応を心掛け、事業所の運営に反映されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者がスタッフ会議に出席し、スタッフの意見を直接聞くことでスムーズかつ確実に要望が反映されている。又、職員専用の意見箱も設置され、自由な意見も言えるよう対策をとっている。	ユニット合同で毎月1回、各ユニットで毎月1回全員参加による意見交換を行い、運営に関する職員の意見・提案や不満を引き出し、そこで出てきた問題点について、管理者が的確・迅速に対応し、業務の運営・改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準や労働時間などは法人内職員全員が平等になるよう規程を作り、変更などある毎に各事務所に指示し、職員の声も聞けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内外の研修に職員を計画的に参加できるように配慮されている。又、参加した職員より、全職員に伝達研修により報告するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修に参加し、他施設の方と話す機会があり、又、実習施設となっている為、他施設から来所時に交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・家族とコミュニケーションをとり、要望はスタッフ間で何回も話し合い、出来る限り答える様にし、本人が不安にならない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前に施設に来て頂き、実際に見ていただいたり、スタッフや看護師と話しをする事で不安をやわらげ要望が実現する様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や、家族が何を望んでいるのかしっかり関わりをもち、対話の中で見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者・介護者と別々に考える事なく家庭的な雰囲気の中で接している。又、自分の出来ることは可能な限り行ってもらい生活を共にし、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来所時には、出来る限り利用者の方の支援をスタッフと共に行ってもらい支えていける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が今まで使っている物や、写真等を持って来てもらい、生活の中でその事に関して会話をしている。	馴染みの人や場所との関係継続については、希望される物は持ち込みが自由で、知人・友人の来訪も見られ、時として「以前住んでいた街並みが見たい。」との要望にも外出を兼ねて対応し、可能な限りの支援に努めるなどの細かい配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の利用者のもとより、別ユニットの利用者が関わり合える様、日に何回かは合同で茶話会や行事を開催し支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	直接グループホーム職員がフォローや支援は行わないが、居宅や事務所のスタッフが相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中で、本人の希望等を聴き、スタッフ間で話し合い、出来る限り支援している。	個別ケアを通じ日頃の関わりを大切に、会話・表情から希望や意向の把握に努め、本人の意向が判断しにくい場合は、家族の協力を得ながら、職員の独りよがりや思い違いとならないよう、他の職員とも相談し、思いやりのある介護支援に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族から、生活歴や環境を聴き、支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の行動を観察する。又、毎日のバイタル測定による身体状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケア会議の中だけではなく、日々の生活の中で気付いた事等は常にスタッフ間で話し合う体制が出来ている。又、家族との話は電話や来所時に話し合い、現状に即した計画作成に努めている。</p>	<p>介護記録を基に、本人の思いや希望を盛り込んで、本人本位の介護計画が作成され、家族に計画内容を説明し共に検討し、関係者が一体となって、利用者により即した介護計画となるよう努められている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子等は、個別の経過ケース記録や事業日誌等に記入する。又、毎日職員が目を通す伝達ノートに記入し、介護計画の見直しに活かせる様努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者本人や家族の希望等を日常の会話等の中で把握し、法人内事務所と連携しながら支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の意味する内容がよく理解できないが、豊かな暮らしへの支援は、ケアプランの見直しなど都度問題提起をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からのかかりつけ医をそのまま継続する事も出来、本人又は家族が納得できるかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。又、精神科医の週2回の回診も行っている。</p>	<p>利用者・家族の希望や要望に基づき、かかりつけ医の受診や協力医療機関の24時間往診等で柔軟な支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	事業所内に2名の専属看護師がおり、又、法人内の訪問看護師も毎日処置等にきている。その中で迅速に相談が出来る体制が出来、適切な看護等が受けれる様に努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時、職員による見舞い等で家族や病院看護師との情報交換等に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入所時に本人・家族等に「看取りに関する指針」を説明している。又、終末期に入り、看取りが必要であれば同意書を交わし、支援に努めている。	重度化・終末期対応については、入居時に「看取りに関する指針」を提示し、事業所の対応を説明。状況変化・重度化が視える時点で改めて「看取り介護についての同意書」を交わし、方針を共有して母体法人の全施設を活用し、過去にも数多の経験を重ね、最善の支援に努められている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	職場内研修で看護師による講習を受けたり、外部研修会の参加で身に付けれる様努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回実施する避難訓練及び母体施設への協力体制が取れている。	警報装置・スプリンクラー等万全の防災システムが確立され、消防の協力を得て行う年2回の避難訓練も同一敷地内の母体法人と協力・連携のうえ実施し、緊急時・災害時の連絡体制も取られている。	

自己 評価	外部 評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃、利用者の人格を守る重要性を職員間で確認しあい、プライバシーの確保に努めているが、時折職員本意の声かけになる事もある。	内外の研修にも積極的に職員を参加させ、人格の尊重とプライバシーの確保に対する意識は高い。特に入浴時や排泄時に利用者の尊厳を傷つけないよう、言葉づかいに十分配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	朝、本人にどの服を着るかを、解る利用者には尋ね、自己決定して頂いている。又、その他についてはその都度、出来る限り自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の全体的な流れの中で個々の時間（将棋・オセロ・縫い物・お経）を持つ様支援しているが、時折タイムスケジュールの様に利用者を動かしている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人や、家族からどんな色が好きか、どんな生活をしていたかを聴き、その人にあった身だしなみが出来る様努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の重度化が進み一緒に準備ができる人がほとんどいなくなっているが、職員がその人の好き嫌いを把握し、別メニューにしたり形態を変えたりしている。	基本的には、関連7事業所共同調理室からの配食を利用されているが、加工調理等がなされ、ホームに適した献立が工夫され、月2回の晩酌の日、巻きずし作りの日等企画したり、食も楽しみの一つと捉え種々工夫がなされている。楽しく職員と共に語らいながらの食事支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養面では栄養士の下、バランス良い食事である。又、水分量については、一人ひとりチェックを行い必要量は確保出来ている。又、お茶等が苦手な方には少し甘味をつけ、飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者は、本人が歯磨きが出来る方は、自分で行ってもらう。出来ない方は、スタッフがを行い、毎食後、義歯の洗浄とお茶によるうがいに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活かし、個々に合ったトイレ誘導等で失敗やオムツの使用減に努めている。又、出来る限りリハビリパンツ使用でトイレ誘導を行っている。	排泄については、排泄記録により利用者の習慣を掴み、早めのトイレ誘導を行う等トイレでの排泄や排泄の自立支援に努力されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	あまり薬に頼らず、黄粉牛乳を引用してもらったり、腹部マッサージ等で自然排便を心掛けている。又、看護師と話し合い、便秘にならないよう協力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、毎日の入浴が可能であるが、入浴は午後の時間に定めている。又、一般浴槽に入浴できない利用者に対しては週2回であるが機械入浴していただいている。	入浴については、24時間入浴可能な設備やシャワーチェア、機械入浴等設備が充実していて、利用者の気分・状況に応じ柔軟に対応されている。	

自己 評価	外部 評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	居室の温度・湿度を気をつけな がら、本人に合った心地よい空 間で安眠・休息出来る様に努 めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	薬剤師・看護師の指導の下で 目的や副作用等の理解に努め ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	本人の昔やっていた事や、出来 る事を見つけ、洗濯物をたたん だり、縫い物をお願いしたり等 、役割を持ってもらうように 努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支援 している。	週1回の買い物や、ドライブ等 に出掛ける機会を設けている。 又、家族同伴で行うお食事会 やドライブ喫茶も年1回づつ ではあるが実施している。	ドライブ、買い物や天候・体 調に配慮しながら敷地内の桜 見物や近隣の散歩に出かけ、 外出が困難な利用者については 、外気浴を行うよう支援がな されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	本人が管理出来る方は小遣い 程度は管理されている。又、 管理が難しい方に関しては、 事務所でいくらかあずかり、 何時でも本人が使える様に している。		

自己評価	外部評価	項目	ユニットかめ 自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば、電話をしてもらっている。又、手紙に関しては月1回は必ず絵手紙を書いてもらい家族等に出している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同の空間に関しては、季節に応じた創作等により飾りつけもして、居心地よく過ごせる様に努めている。	共用空間は、廊下に諸行事時のスナップ写真等がさりげなく掲示され、居間には燦々と太陽が降り注ぎ、和室で横になれる事も出来る。ホーム内ではゆったりと寛げ、別の一角には読者に耽ったり、2～3人で談笑出来る場所も設けられ、気ままに過ごせるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室には、家族の写真や馴染みの物、又本人の趣味の物等を置き、ゆったりとした気持ちで過ごせる様努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、家族の写真や馴染みの物等を置き、ゆったりと居心地よく過ごせる様、努めている。	個室は和室と洋室があり、ある程度選択が可能。トイレ・洗面所も各部屋に設置されプライバシーが確保されている。利用者は使い慣れた家具・炬燵等持参し、家族の写真や大切なものに囲まれて心地よく過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は段差もなく車イスの走行も可能である為、車イスでの自走も出来る。又、部屋の前には表札をつけ、本人が自室がわかる様に工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念に沿い、事業所内で理念を作り、全員に徹底できる様随時振り返っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常の散歩や、花見会・夏祭り・小中学生・保育園児らの訪問等地域と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年2回広報誌発行や在宅系事業所のスタッフによる在宅訪問時に活かされている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開き、事業所と地域との意見を交わし、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議のメンバーに市の介護保険担当者が参加しており、協力関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人内外での研修会参加や、身体拘束禁止委員会を立ち上げ、定期的を開催している。又玄関の施錠については建物の構造上フロア出入り口が電気錠で施錠されているが誰でも開けられる状態である。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	法人内外の研修会に職員は出来る限り参加し、虐待防止法を学ぶ機会を持っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	法人内外の研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	重要事項説明書等用いて管理者と担当事務職員が対応し、説明・確認している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	運営推進会議や家族会、面会時には家族の要望を聴き、出来る限り反映させている。又意見箱を設置し、意見・苦情を受け付けている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定例会議に出席し、スタッフの意見を聞くことでスムーズかつ確実に要望が反映されている。又、職員用の意見箱を設置し自由に意見が言える様対策をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準、労働時間等法人内職員全員が平等になる様規程を作り、変更ある毎に各事務所に指示し職員の声も聞ける様にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内外の研修に職員を計画的に参加できる様、配慮されている。又、参加した職員より全職員に伝達研修により報告する様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修に参加し他施設の方と話をする機会があり、又実習施設となっているため他施設から来所時に交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人・家族とコミュニケーションをとり、要望はスタッフ間で何回も話し合い、出来る限り答える様にし本人が不安にならない様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前に来て頂き、実際に見ていただいたり、スタッフや看護師と話をすることで不安をやわらげ要望が実現する様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の望みが何か関わりをしっかりと、対話を通して見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	動ける方は洗濯物等日常生活に必要な出来る事を一緒に行っている。利用者家族と別々に考えず、家庭的雰囲気の中で接していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や月1回の絵手紙での状況報告の際、随時状態を話し、必要な協力をあおいでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	天気の良い日は職員とショッピングに出かけ、懐かしい場所等肌で感じてもらっている。又、持ち物を持ち寄ってもらい、それらを通して会話を膨らませている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット づる自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関わりがスムーズに行える様支援している。又、関わりが偏らない様注意している。又各ユニット合同で茶話会・行事を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	直接グループホームスタッフがフォロー支援は行わないが、居宅や事務所のスタッフが相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り希望に沿ってケアをしている。意思表示困難な方については家族の意向を参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族等への聞き取りを行い、生活歴の把握に努め支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常の変化がないかスタッフ全員で観察し、変化があれば日誌等で後のスタッフに伝えている。日常のバイタル測定の実施		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケア会議の中だけでなく、日々の生活の中で気づきは常にスタッフ間で話し合う体制がある。又家族との話は来所時等に話し合い現状に即した計画作成に努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子を個別の経過、ケース記録や事業日誌に記入し、毎日スタッフが目を通す伝達ノートに記入し、介護計画の見直しに活かせる様努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者本人・家族の希望等日常の会話等の中で把握し法人内の事業所と連携しながら支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の意味がわからないが豊かなくらしへの支援はケアプランの見直し等、都度問題提起している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からのかかりつけ医をそのまま続けたり、本人または家族が納得できる医療が受けられる様、支援している。又、精神科医の週2回の回診、必要時の往診等も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所内に2名の専属看護師がおり、又法人内の訪問看護師も毎日処置にきている。その中で迅速に相談ができ、適切な看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員による見舞い等で家族や病院看護師との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時、本人・家族に「看取りに関する指針」を説明している。又、終末期に入り看取りが必要であれば同意書を交わし、支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場内研修で看護師による講習を受けたり、外部研修会の参加で身に付けられる様、努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を通して有る事に適切な対応ができる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃利用者の人格を守る重要性をスタッフ同士確認しあいプライバシーの確保に努めているが、時折職員本意の声かけになる事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示できない方でも、表情等で意向を確認する様、努めている。更衣時服を選んでもらったり、飲み物を選んでもらったり、自分で決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の全体的な流れの中で個々の時間（歌・お経・折紙等が持てる様、支援しているが、時にこちらの都合で利用者にあわせてもら時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	歯磨きをしたり、眉を書いたり、パンツ・スカート・ズボンをさげたり、髪をといたり、顔をふいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の重度化が進み、一緒に準備できる方が殆どいないが、スタッフがその人の好みを把握し別メニューを用意したり形態をかえたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	経過・ケース記録に記入し，1月のトータルを出して常に水分量を確保している。又，栄養士の下，バランスよい食事を提供し，食事量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者は本人が歯磨きができる方は自分で行ってもらう。出来ない方はスタッフが行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	安全・快適を優先する余り，オムツ（パット）使用にかたよっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	あまり薬に頼らない様，水分量を多くとってもらったり腹部マッサージ等で自然排便を心掛けている。又，看護師と相談し便秘にならない様，努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に毎日入浴可能だが，時間は午後を定めている。又，一般浴槽に入れない方に対しては週2回だが機械を使い湯船に入ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	居室の温度・湿度に気をつけなが ら本人にあった心地よい空間で 安眠・休息が出来る様努めてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方箋等に目を通すと共に、看 護師・薬剤師からも情報を得て 、理解を深めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人の昔やっていた事や出来る ことを見つけ、洗濯物をたたん だり、縫い物をしてもらったり 、役割をやってもらう様努めて いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	週1回の買い物・ドライブ（不 定期）に出かけるチャンスを作 っている。又、家族に同行をお 願いして食事会・ドライブ喫 茶等実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人が管理出来る方は小遣い程 度は管理されている。管理の難 しい方に関しては事務所でいく らかお預かりし、何時でも本 人が使える様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	ユニット する自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月1回の手紙で、可能な方は文面を書いてもらっている。又、電話も希望があれば都度対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空間の飾り等配慮し、季節・生活感を感じてもらえる様、努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室には家族の写真や馴染みの物、又、本人の趣味の物など置き、ゆったりした気持ちで過ごせる様努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に写真や馴染みの物等、安全面を考慮しながら、持ち物をおいてもらい、居心地よく過ごせる様、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差なく車イスでの走行も可能であり、自走も可能。又部屋の前に表札をつけたり、目印になるものを置いたり、本人がわかりやすい工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない 意思表示による
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない おそらく
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない 面会の頻度による

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム長寿苑

作成日 平成 23年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	日常的に外出支援を行っているが、その実態を家の方があまり知っていない。	外出支援にかかわらず家族の方にどのような支援を行っているか理解して頂く。	定期的に出している絵手紙に外出状況を書いて出したり、来苑時に日常の状況を伝える。	6ヶ月
2	51	毎月の近況報告の手紙の中で本人の様子（行事散歩等）の明記が充分になされていない。	本人の行動、様子がより詳しく伝わる様にする。	絵手紙に様子（行事散歩、その時の様子等）をくわしく明記する。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。